

“全電線・愛のカンパ基金”を源泉に

■すくらむトライ

労働組合の社会貢献活動事例⑪

全日本電線関連産業労働組合連合会・中央執行委員／田嶋一美

奨学金の支援を受けている生徒



◆はじめに（社会貢献活動全般について）

全電線の社会貢献活動については、1993年度政策委員会検討結果に基づき、1994年度運動方針において、福祉活動の充実に向け組織労働者としての立場から、できる範囲での社会貢献活動を行っていく必要があるとの考え方を示しました。そして、1994年に実施した「組合員意識調査」でも、救済支援・国際貢献活動・障害者支援活動への関心が高まっていることから、社会貢献活動へ取り組むべきであると

の回答が70%を超え、全電線独自の具体的な活動として、「全電線・愛のカンパ基金」を設立しました。

「全電線・愛のカンパ」の実施については、1994年度より開始し、社会貢献先として、日本民際交流センターが実施している「ダルニー奨学金制度」への支援として、中学校進学までの3年間について支援をしていくこととしました。

また、2001年度には、新たな支援先として、NPO団体として外務省からも支援を受け、国連や国際機関からも評価されているJAHDS（人道目的の地雷除去支援の会）を新たな支援先に加え、社会貢献活動の幅を広げました。

さらに、2004年度からは、国内の社会貢献活動の充実を図るため、「連合・愛のカンパ」の他に全電線独自として、豪雨、台風による被害など、昨今多発している自然災害に対しての自然災害見舞金制度を発足し、被災された組合員に対し支援を行な

ってきました。

1.ダルニー奨学金制度

日本民際交流センター代表が、在日留学生の故郷のタイ東北地方訪問を契機とし、その村に住む子供向けに中学進学奨学金の提供を開始したことから、ダルニー奨学金制度が発足しました。これは、タイで最も貧しいといわれている東北地方の子供たちに対し、中学校への進学を支援する国際協力里親援助の制度であり、子供たちがより良い状態・環境の中で勉強できるように、授業料、制服、教科書代等の支援を行なうものです。

◎奨学金制度の使途と現地の子供たちとの交流

全電線は、1994年度より「ダルニー奨学金制度」への支援を始め、1996年には、全電線・愛のカンパの活動充実に向け、ダルニー奨学金支援先の現地訪問を行いました。また、実際に現地訪問された加盟単組役員の方々より、この支援につい



真剣に授業に取り組む生徒達

ては継続して行っていくべきであるとの多数の意見をいただき、東南アジア諸国の教育支援の重要性が再認識されたところでもあります。

特に、現地訪問については、タイで最も貧しいといわれる東北地方を訪問し、子供たちの日々の暮らしや学校等を見学するなかで、現地の人々の交流や、村での宿泊を含め、現地での生活を実際に体験するとともに、村の方々とも交流を図ってき

福祉活動分野で社会貢献

ました。

◎奨学金により巣立っていく子供たち

全電線は、2004年度現在においても、「ダルニー奨学金制度」への支援継続を行なっており、これまで約750名の子供たちに支援を行なってきました。そして、すでに半数以上の子供たちが中学を卒業し、高校進学や社会に巣立っていることなど、社会貢献活動として、一定の役割を果たしているものと考えます。

2. JAHDS(人道目的の地雷除去支援の会)

これまでの民族紛争や地域紛争など、世界中には1億個を越える地雷が埋められているとも言われており、これら無差別に埋められた地雷や、放置された不発弾などによって、罪のない多くの一般市民が被害を受けています。

この問題を解決・支援することを目的に、1998年に支援の会が発足し、翌年には特定非営利活動法人(NPO)としての承認を受けるなかで、国連、国際機関、NGOや被災

地の人々と連携しながら地雷除去活動を支援しています。また、被災地の状況調査、必要な資機材の無償貸与、資金援助、地雷探知技術の開発、広報活動も行っています。

また、JAHDSでは、現地にて



地雷除去員による地道な除去作業



地雷除去作業

地雷除去員16名を採用し、地雷除去の訓練を行い、そのうち5名はタイ国初の女性除去員が誕生し、地雷除去作業を行っており、現在は、「ピーロード」を合言葉に平和のための活動をしています。

このように、全電線では今後の社会貢献活動の充実に向け、前述のJAHDSの活動内容等について十分検討を行うとともに、組織論議を踏まえるなかで、新たな支援先としてJAHDSを加えながら、社会貢献活動の幅を広げました。

3. 自然災害見舞金制度について

全電線の社会貢献活動は、前述のように「全電線・愛のカンパ」を源泉に、これまで取り組みを展開してきましたが、今後の活動の充実と、更なる「全電線・愛のカンパ基金」の有効活用が求められる状況にありました。

特に昨今、地球温暖化現象やそれに関連する異常気象等の発生など、自然災害が多発している状況にあり、加盟単組の組合員への対応も必要であるとの考え方から、自然災害によ

る組合員の被災者に対し、「全電線・愛のカンパ基金」の中から見舞金を贈っていくこととしました。具体的には、被害の発生状況の把握や被害者の実態把握など、各地協との連携を密にするなかで、災害被災者に対し、2004年度から「自然災害見舞金制度」を発足し、見舞金を贈ることとしました。

また、連合からの自然災害発生時の緊急支援(義援金)についても、「全電線・愛のカンパ基金」より拠出し、組織労働者として社会貢献活動の一環として、復興の手助けになればと取り組んできたところです。

4. 今後の活動について

全電線は、これからも社会貢献活動として、「全電線・愛のカンパ」や、これらの支援を継続して行っていきたいと考えます。そして、この社会貢献活動を継続するなかで、一人でも多くの人たちに対し、明るく、幸せな生活がおくれるように、今後についても物心両面での支援活動が実現できるように取り組んでいきたいと思えます。